

# 図書館だより

埼玉県立図書館

17号



(新井仁嗣氏提供)

## 秩父の秋

石越ゆる水のまろみを眺めつつこ  
ころかなしも秋の溪間に 牧水

旅好きの若山牧水は、秩父へ三度来  
ている。最初の大正六年十一月の作品  
は、「秩父の秋」という九十六首で、  
歌集「溪谷集」(東雲堂)に収められ  
ている。

十一月のなかば、打続きたる好晴に  
乗じ秩父なる山より溪を歴巡る

という詞書がついているが、その内  
の一首で、のびやかな調べと、しみじ  
みとした情感はいかにも牧水らしい。

ちろちろと岩つたふ水に這ひあそ  
ぶ赤き蟹ゐて杉の山静か

この溪は、名栗川で、牧水の遊んだ  
三日間は、よく晴れていたようだ。

「秩父の秋」は、秀作のきこえが高  
い。



養蚕の里に思う  
下山 二男

県西北部の養蚕

生糸は、かつてわが国最大の輸出品であった。今日、自動車や高度科学技術製品が輸出品の王座をしめていくように、農家の軒下で紡がれた生糸が花形輸出品であったのだ。これなくして、わが国は近代化を成し遂げられなかったほどの重みをもつ。いうまでもなく、生糸は蚕（かいこ）が生み出す宝である。養蚕地域はひとり埼玉だけでなく、上州・信州の山間僻地に広がっていたが、埼玉ではその西北部が中心をなしていた。輸出の増大にともなう、製糸工場は草深い秩父の山間にも姿を見せ、その模範として群馬の富岡に官営の製糸工場が開設されたのであった。かくて、養蚕地域と横浜を結ぶ鉄道の建設は、急を要することとなった。明治十六年、政府の保護のもと他に先がけて現在の高崎線が本庄まで開通した理由はそこにある。

生糸が織りなす絹織物は、やわらかで美しく、かつ丈夫である。ちょうど百年前の秋、開館したばかりの鹿鳴館で新階級の高貴夫人たちが、たわむれの舞踏にすそをひるがえしたその衣は、まさに秩父産の絹であったのだ。しかし、秩父絹には悲しい思い出がある。そのことを百年後の私どもは、図書館の「秩父事件史料（埼玉新聞社刊）」「田中千弥日記」「木公堂日記」などあまたの資料によって知ることができる。

明治十六年の秋

秩父は不況のどん底にあった。荒川は、溪谷を深くきざんで盆地にかけくだる。さらに、この盆地を東西に二分し、平野部を求めて寄居に至る。このとき、西秩父の山間農民は、まゆと生糸に現金収入の大半を依存していた。その故に、松方大蔵卿のデフレ政策は深刻な打撃となった。当時、横浜貿易は、外商たちの左右するところのものであり、アメリカの恐慌もかさなうて、生糸相場は「あばれ馬」のように変動した。いきおい、養蚕農民の目は、たえず、横浜や東京に向けられた。そこでの情報は、他の農村地域よりはるかに早く秩父にもたらされたのである。この情報は、いち早く峠を越え上州

や信州の養蚕地域へとこぼれた。この時期、秩父の峠は生きていた。好況の波は、十四から十五年にかけて続いた。ところが、この年の秋には、生糸の値段が十三年の半値にくだってしまったのである。「金づまり」のところへ松方財政の増税は、農民の肩に重くのしかかった。そのため、高利貸から借りた借金が払えず、「身代限り（破産）」となつて流浪する農民が、秩父郡下七百戸にも達したと「木公堂日記」の著者は伝える。

「御一新」に寄せる農民の期待は大きかった。それだけに、徳川の世と変らない小作料と賦役、それに、負担の大きい学校費は不満であった。農民の茶飲み話に、「自由党」「板垣公」ということが語られる。

明けて十七年、早春の峠路に巡礼姿を見ようになつても、事態が好転するさざしはみえない。

生活の中の民衆文芸

養蚕の民は、小正月にまゆ玉を飾つて豊年を祈ることを忘れない。今なお、多くの民俗行事が生活の中に生きていく。祭りが好きなのも秩父の民で、俳諧とともに社殿での芝居を楽しんだ。もとより、芝居は虚構の世界であるが、舞台にくりひろげ

られる人間の純粋さに心ひかれ、明日の活力ともなったのである。また、座の文芸である俳諧は、現実のきびしさをぐちっぽく表現するのではなく、心ゆとりは生活を支えるものとなった。

五月雨や

雨乞いをして御利益がない。雨のほしくない時季には降りすぎる。とかくままならない世の中だ。さらに、「寿宝」氏は句を連ねる。

日の照らぬ谷も遅れぬ紅葉かな

自然は、日の照らぬ谷の楓さえ茜に色どることを忘れない。いったい、この世はどうなつていくのか。農民は現実の暮らしをみつめざるを得ない。秩父の山塊にエネルギーは蓄積する。そのエネルギーを、秩父の人たちは竜勢や妙見祭りに天高く発散させてきたのであった。

世をあげて不況であるならば、養

県内図書館めぐり

和光市図書館

市民の皆さんが待ち望んでいた和光市図書館がこのたび完成し、八月二日オープンしました。この図書館は東上線と和光市駅には近いシーアイハイウェイ・ショッピングセンター三階にあるワンフロアーの図書館です。面積は、一六二二㎡で、仕切りがないので館内が一望にみわたすことができます。ショッピングセンターの階上の図書館ですが、階下の騒音も聞えない静かな環境で本を読むことができます。

忙しい思いをした開館準備から開館にこぎつけて一月たちましたが、くらしの中にふれあひの図書館をモットーにして市民の皆さんに親しまれる利用価値の高いものをめざしております。

さて、開館してみると思わぬことに遭遇するものです。日常的な身近な問題への対応など新たな認識をしました。これからは、更に新設の図書館としてまず館の規模にふさわしい図書整備充実を図り、円滑な貸出し、活用ができるように考えます。開館当初三千五百冊の蔵書も本年一万八千冊増冊し、分室も含めると六万三千冊になります。

五年計画で蔵書十萬冊をめざし、図書の整備充実を努めております。施設の特色としては、ワンフロアーなので、各コーナーを書架配列や表示により仕切り、どこどこにソファを置いて気軽に読書できるようにし、テラスでは、ベンチで読書もできるようにしました。

更に、これからは、利用者の感想や意見を寄せていただき、くらしに役立つ、ふれあひの図書館をめざしています。

○開架書架部分（成人用）三二四㎡、受付カウンター八二㎡、新聞雑誌コーナー一八二㎡、事務室一〇二㎡、読書室二〇二㎡（二四席）、会議室（視聴覚室）九四㎡、対面朗読室二二㎡、書庫九四㎡、その他文庫・新書書架など。



所在地 和光市本町31の1  
電話 〇四八四（六三）八六八二

散るもみじ

ここに特異な生涯を生きた二人の人物がいる。一人は、事件の渦中にありながら、全くこれに関わることなくひたすら観察者としてのこの推移に目をこらし、卓越せる価値をもつ「秩父暴徒雑録」を書き残した田中千弥その人である。他の一人は、

蚕の民は、極度の節約をして精いっぱい働いた。何度も警察署や郡役所へ足をこび、高利貸の暴利を説諭してほしいと請願した。なべ釜持参の高利貸交渉がくりかえされた。

養蚕農民の怒り

溪流をさかのぼると、かなたの傾斜地に、よくぞ築いたと思われる石垣と家が忽然と姿を現わす。人間の生きる営みのきびしさを感ぜずにおかない風景だ。小石まじりの畑を耕すこと、まさに天に至る。一粒の米とて実らず、麦やそばを常食とし、一貫して勤勉と誠実さをつらぬいて

こと破れて北海道に逃れ、三十余年に及ぶ不屈ともいえる歳月を生きたに及ぶ不屈ともいえる歳月を生きたいた井上伝蔵である。神官と戸長補佐役（筆生）、冷徹な歴史家と会計長、ともにひとときわめだつ知識人であった。その千弥は、困民の執拗なまでの駆り出しをうるさいと思ひながら、すさまじいそのエネルギーを感じ、岩も木も物いふやうぞちるもみじと詠み、また、伝蔵は最果ての地にあって、今はなき故郷の友を偲び一句を詠んでいる。

絹の里にちたつくやたま祭

絹の里びとはやさしかった。ここにも、最後までその任務を放棄せず信州東馬流に付れた絹の里の農民がいる。その家族のために、生きて残った里びとはいはれる。

「わしらが連れ出して喜十郎は生きばてたんだから、何をいっても、まず喜十郎の妻を刈つてやれよ」

それが、最も勇敢で最も大きな痛手を受けた風布の人の心であった。今年も、絹の里は、血潮にもにて紅葉に色どられることであろう。

（県立熊谷図書館専門調査員）



# 埼玉の文学 埼玉関係の俳諧資料考

▽2△

今回は江戸期俳諧の宗匠、横田柳凡について紹介したい。横田家は鴻巣宿で、代々酒造業を営み、子柳也孫柳涯、曾孫中山と俳諧を好くした家系である。柳凡は八代目の店主で、名を盛英(一七一六〜八八)、通称を三九郎、天明八年二月九日、七十三歳で歿している。

芭蕉の正風を継ぐ遊俳として、全国的な交友も多く、各地を俳諧行脚した記録は、それぞれ紀行文として遺したようである。

年記によると、伊香保・熱海・伊勢・奥州・鎌倉・草津・上毛・新潟・東海北国・室八嶋・行道山・鉢形・伊香保(再)・鹿島・筑紫・妙義山三波石と紀行未刊稿本があったはずであるが、天明四年の鴻巣火災にあい、二三を除いて焼失したようであることに残念なことである。

そこで板行されたと思われる木板本は、二笈集・七時雨・(筆の水)・(風客句集)・俳諧大和耕作集・百花集・追善春眼集・布袋庵句集があるが、(一)を除く六種は確実と思われるものである。特に次の二種三冊は、県立浦和図書館に保存されており、希少本として価値ある和装本である。



肖像画があるので写真に撮って掲げたが、杉夕敬画とは、柳凡の弟子で、鴻巣の大間に住む福島東雄(武蔵志の著者)の俳号である。

肖像画を見ると、柳凡の背後には文箱を三つも並べ、左脇に帯刀を許され、文武両道の先達であったようである。この発句集を読んで特に紹介したい内容は、

○蕉翁千句塚を造立し百回忌の法蓮を取越し宮侍りてはせを忌に百と世運ぶ時雨哉

○蕉翁の好せ給ふ物を備て芭蕉忌やけふ芭蕉の玉まつり



芭蕉歿後百年を経て、千句塚(写真)を造立したときの柳凡の作った発句である。今も鴻巣市勝願寺境内に、この千句塚が保存され、けふばかり人も年よれ初時雨芭蕉夕暮をこらえく初時雨柳凡の両句が碑面に彫られている。なお同墓地には、横田柳凡と福島杉夕の

墓が旧跡として県指定を受けている。次に横田柳凡に関する研究論文として、埼玉史談に掲載されている、号数、標題を紹介するならば、

第一巻第二号(昭四四年十二月) 布袋庵柳凡……金沢文磨

第九巻第六号(昭三三年七月) 柳凡関係俳書……松本義一

第十巻第二号(同年十一月) 布袋庵柳凡年記……金沢文磨

第十巻第三号(昭四四年一月) 柳凡の稿本古河わたり……松本義一

このほか埼玉県史、資料編12に、七時雨・横田柳凡編、古河わたり集・横田柳凡の全文が、天理図書館所蔵の翻刻として紹介されている。

遊俳とは、俳諧指導を職業とする業俳に対して、俳諧を共に楽しむ人々のゆとりある呼び名である。

酒造業とかかわりもない文化活動に、私財をもって豪遊を重ねた遊俳は数多く、埼玉の鴻巣宿の布袋庵に、多くの文人墨客が訪れているのを見ても、全国的に知られた巨匠と云える人物であった。

惜しむらくは、紀行文の多くが焼失し不明のままなので、そのとき同行した俳人が書き遺した古文書でも発見されれば、横田柳凡の伝記が一層光り輝くことになるだろう。(鈴木)

## 東西南北

第五回本を読む県民のつどい  
県民の皆様、本に親しみ、図書館活動に対する理解を深めていただくよう「本を読む県民のつどい」を開きます。多数の皆様参加をお待ちしております。

日時 11月16日(水) 13時〜16時  
会場 蔵市民会館(蔵市中央4-1)  
内容  
○読書感想文入選者の表彰  
・作品朗読  
○記念講演(演題)「読むこと終りなきたのしみ」(講師)金井美恵子氏

※ 入場無料 来場者には読書感想文集を贈呈します。  
問い合わせ 埼玉県立浦和図書館  
「本を読む県民のつどい係」(〇四八八二九一二八二二)

県立図書館特別休館のお知らせ  
秋季特別整理のため、次の期間、休館となります。

浦和・熊谷図書館  
10月17日(月)〜10月26日(水)

川越・久喜図書館  
9月28日(水)〜10月7日(木)

ただし、移動図書館、一般事務は

行っています。

## 10・11月の催し物

● 県立浦和図書館

期間 11月9日(水)〜11月14日(月)

内容 9時30分〜16時30分  
食べものと健康  
● 県民の日映画会

○ 11月11日(金) 10時・14時  
題名 「輸出専用第一部・農業」/特別資料展「の関連上映

○ 11月12日(土) 10時・14時  
題名 「あ、野麦峠」

● 県立熊谷図書館

● 名作映画鑑賞会

○ 10月1日(日) 14時  
会場 児玉町立児玉小学校  
題名 「キャップテンハローック」

● 「野菊の墓」  
ビデオコンサート

○ 10月29日(日) 14時  
題名 「TAKURO LIVE

82」王さまたちのハイキング

● 県立川越図書館

● 郷土を知る資料展

期間 11月9日(水)〜11月14日(月)

9時〜17時  
● 人間・比企地区文学散歩資料展  
● 60年代・日本の唄と映画―浦山桐郎の作品とその時代―

第一回 10月8日(日) 13時30分  
題名 (映画)「キューポラのある街」(レコード)「寒い朝」他

第二回 10月15日(日) 13時30分  
題名 (映画)「非行少女」(レコード)「若者たち」他

第三回 10月22日(日) 13時30分  
題名 (映画)「私が棄てた女」(レコード)「世界は二人のため

に」他  
※いずれも先着50人

● 著者を囲むつどい  
11月9日(水) 14時 定員50人  
会場 坂戸市コミュニティセンター  
※佐藤愛子さんを囲むつどい

● 県立久喜図書館

● 著者を囲む会

○ 10月28日(金) 13時30分  
会場 白岡町中央公民館  
講師 大原富枝氏

演題 「文学をとおしてのわたくしの生き方」  
○ 11月8日(火) 13時30分

会場 行田市中央公民館  
講師 阿刀田高氏  
演題 「作家の脳みそ」  
● 講演と映画のつどい  
○ 12月2日(金) 13時30分  
会場 岩槻市福祉会館  
講師 山田太一氏  
演題 「一つの生き方について」  
題名 (映画)「男たちの旅路」  
※いずれも、ハガキで申し込む  
● 郷土資料展  
期間 11月1日(火)〜11月6日(日)  
9時〜17時  
※埼玉・北埼玉地域25市町村から刊行されている資料展

会場が無記入の催し物は、いずれもその項目の主催館印が会場となります。詳細は県立各図書館へお問い合わせください。  
浦和(四六二二二) 熊谷(四六二二二) 川越(四六二二二) 久喜(四六二二二)

「県民の日」開館のお知らせ  
11月14日(月)、県立図書館は定例休館日ですが、「県民の日」のため開館します。なお11月15日(火)は振替休館日となります。



# 読書グループの紹介

## しらさぎ読書会

昭和五十五年春、志木市立図書館で子供の本を読む会が開かれ、集った人の中から「ぜひ大人の本の読書会も作りたい。」との声が出て、同年七月に誕生しました。荒川の土手付近の水田に飛来する白鷺にちなみ、しらさぎ読書会と名付けました。

例会は月一回、テキストは県立図書館の貸出文庫を利用し、読後感等を話し合っています。会員は三、四十代の主婦が中心ですが、子育て真最中の若い人から、子供からの自立に悩む花の中年まで幅広く、感想の内容も各自の生活が投影されバラエティに富んでいます。また、男性会員が二人いて、いずれも停年退職後の悠々自適の生活の中で、本を楽しむでおられます。テキストに新渡戸稲造の『武士道』が出たのも男性ならではの選択と言えましょう。

文学散歩も年二・三回実施し、お互いの心の交流を深めるのに役立っています。今、人気の『矢切りの渡

し』には一昨年、伊藤左千夫の『野菊の墓』を読み出かけました。昨年は『田舎教師』の舞台の羽生へも。その他例会で作品を取り上げた後、樋口一葉、森岡外、大佛次郎、吉川英治等の記念館を見学しました。図書館の方々の協力添えで、発足以来三年余、会員も三十七名に増えました。この四月から参加者の便宜を考え、志木ニュータウン居住者を中心に会支部を作り、例会会場を二つに分けました。



渡辺淳一氏を囲んで

## 青桐読書会

「青桐読書会」これが私たち十二人のささやかな読書会です。

昭和四十一年、川口市立本町小のPTAの一環として七人で始まった会も、紆余曲折を経ながら十七年目を迎えました。昭和四十二年一月「本を読むお母さん大会」が大宮市で行われ、初めて参加したあの時の感激、これが現在まで続いた源であったといえそうです。

発足当時は毎月二回読書会を開き、読後感を語り合ったものでした。最初に読んだ「愛と死・友情」（武者小路実篤）は忘れることができませんでした。会員の先生が次々と名作や話題作を紹介してくれ、夢中で取り組みました。翌年には、「あおぎり」という文集も出しました。四・五年の中だるみがありました。昭和四十八年、YBCのグループ読書の記録に応募し、「生存者」で奨励賞をいただきました。

昭和五十四年三月に第二（現前川）図書館のお骨折りで、市内の十四の読書グループの横の連絡ができました。県や市の文学散歩、文化講座にどんどん出席し、大いに知識を吸収しています。



府中国分寺方面文学散歩

現在、私たちは貸出文庫より毎月二冊ずつお借りして、第四土曜日の午後、公民館で意見交換をしております。この制度になって四年位ですが、図書館の方と年度の方針を決め、年間二十四冊の本の題名をまとめた時の満足感ほたとえようありません。また、読めそうもない大作を読み上げた後の疲労と、それに倍する喜びは読書会ならではの収穫でしょうか。

会員の年齢は、四十代より六十代と開きはありますが、考えの相違・理解の仕方などそれなりに色々参考になります。

「見えなくなるまで読む」を合言葉にして、本を通じて友情のきずなを深め、社会への視野を広めたいと願っております。



## 科学者の著作 —物理学者—

一般に公共図書館は、人文・社会科学系統に比べて自然科学分野がやや弱いと言われています。利用者との関係で、専門書の収集をどこまでとするかが難しいことが、その大きな原因でしょうか。とは言え、自然科学分野の資料の収集をおろそかにしてよいわけではありません。

そこで今回の「本のひろば」では、県立図書館が所蔵する自然科学関係の本をさまざまな角度から紹介する試みの一つとして、日本の傑出した物理学者五人の著作を取り上げてみました。どうぞ御利用ください。

なお参考として、県立図書館にはありませんが、国立国会図書館で所蔵している本も挙げておきました。記載の内容は、以下の順になっています。

書名〔巻数〕 編者 出版者  
〔シリーズ名〕 出版年

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（所蔵館名）<br/>全般的著作<br/>科学の思想Ⅰ 井上健編 筑摩書房<br/>（現代日本思想大系25） 昭39<br/>（浦・熊・川・久）<br/>ノーベル賞講演物理学〔全12巻〕<br/>中村誠太郎、小沼通二編 講談社<br/>昭53 55（浦・川）<br/>江崎玲於奈<br/>アメリカと日本 読売新聞社 昭55<br/>（久）<br/>新日本イソップ物語 日刊工業新聞社 昭53（浦・熊・川・久）<br/>トンネルの長い旅路 講談社 昭49<br/>（浦・熊・川）<br/>寺田寅彦<br/>寺田寅彦随筆集〔全5巻〕 小宮豊隆編 岩波書店〔岩波文庫〕 昭22 23（浦・熊・川・久）<br/>寺田寅彦全集―文学篇―〔全18巻〕 岩波書店 昭25 26（浦）<br/>寺田寅彦全集〔全17巻〕 岩波書店 昭35 37（浦・熊・川・久）<br/>朝永振一郎<br/>科学と科学者 みすず書房 昭43<br/>（浦・川・久）<br/>鏡のなかの世界 みすず書房 昭40<br/>（浦・熊）<br/>鏡の中の物理学 講談社〔講談社学術文庫〕 昭51（川・久）</p> | <p>Scientific Papers of TOMONA<br/>GA 宮島竜典編 みすず書房<br/>昭46 51（浦・久）<br/>スピンはめぐる 中央公論社〔自然選書〕 昭49（熊）<br/>朝永振一郎著作集〔全12巻〕 みすず書房 昭56 58（浦・熊・川）<br/>庭にくる鳥 みすず書房 昭51（浦・川・久）<br/>物理学読本 第2版 みすず書房 昭44（浦・熊・川）<br/>物理学とは何だろうか〔上・下〕 岩波書店〔岩波新書〕 昭54（浦・熊・川・久）<br/>量子力学〔全2巻〕 みすず書房 昭27 28（浦・熊・川・久）<br/>量子力学の世界像 弘文堂〔アテネ新書〕 昭24（熊）<br/>長岡半太郎<br/>原子力時代の曙 朝日新聞社 昭26（国図）<br/>随筆 改造社 昭11（国図）<br/>田園銷夏漫録並後難後感 岩波書店 大13（浦）<br/>湯川秀樹<br/>科学者のこころ 朝日新聞社〔朝日選書〕 昭52（川）<br/>科学と人間性 国立書院 昭23（浦）<br/>極微の世界 岩波書店 昭17（浦）</p> | <p>原子と人間 甲文社 昭24（国図）<br/>現代科学と人間 岩波書店 昭36（浦・熊）<br/>心ゆたかに 筑摩書房〔筑摩叢書〕 昭51（浦・川）<br/>この地球に生まれあわせて 講談社〔講談社文庫〕 昭50（久）<br/>Scientific Works 岩波書店 昭54（久）<br/>最近の物質観 講談社〔講談社学術文庫〕 昭52（川・久）<br/>思考と観測 リスナー社 昭24（浦）<br/>自己発見 毎日新聞社〔現代日本のエッセイ〕 昭47（熊・久）<br/>自己発見 講談社〔講談社文庫〕 昭54（久）<br/>自然と理性 秋田屋〔新学芸叢書〕 昭22（浦）<br/>しばしの幸 読売新聞社〔読売新書〕 昭29（国図）<br/>創造への飛躍 講談社 昭43（浦）<br/>創造への飛躍 講談社〔講談社文庫〕 昭46（熊・久）<br/>創造的人間 筑摩書房〔筑摩叢書〕 昭41（浦・川）<br/>素粒子論序説〔上〕 岩波書店 昭23（国図）<br/>存在の理法 岩波書店 昭18（熊）<br/>旅人角川書店〔角川文庫〕 昭35（久）</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



## 編集後記

彼岸を過ぎすっかり秋めいて参りました。曼珠沙華(彼岸花)がひよつと頭をもたげ、赤色の焰を見せております。

本号も各館の御協力によりまして、すばらしい内容の「だより」をお届けすることができました。

先般も県外の図書館から、ぜひとの寄贈依頼を受けお送りいたしました。図書館界は、それぞれの役割にむかつて、充分な機能が発揮できるよう、お互いに頑張りたいと存じます。

- 天才の世界〔正・続・続々〕 小学館(小学館創造選書) 昭48(54)  
(熊・川・久)  
非局所場の理論 朝日新聞社 昭27  
(国図)  
物質観と世界観 弘文堂 昭23  
(国図)  
物理学通論(上・中・下) 田村松平共著 大明堂 昭30(37)  
(浦・熊)  
物理講義 講談社(講談社サイエンス・ライク) 昭50(浦・川・久)  
物理講義 講談社(講談社学術文庫) 昭52(川・久)  
β線放射能の理論 岩波書店 昭11  
(国図)  
本の中の世界 岩波書店(岩波新書) 昭38(浦・熊・川・久)  
目に見えないもの 講談社(講談社学術文庫) 昭51(川・久)  
湯川秀樹自選集(全5巻) 朝日新聞社 昭46(浦・熊・久)  
湯川秀樹選集(全5巻) 甲鳥書林 昭30(31)  
(国図)  
量子力学序説 弘文堂 昭22(浦・理) 理論物理学講話 3版 朝日新聞社 昭24(国図)  
私の創造論 小学館(小学館創造選書) 昭56(川・久)

以上、今回は物理学者、しかも日本人に限って紹介しましたが、ここに紹介できなかった諸外国の物理学者、更には化学者・生物学者等の著作についても、機会がありましたら取り上げたいと思っています。

なお、国立国会図書館所蔵の本については、県立各図書館を通じて申し込めば、それぞれの館で御覧になることができます。ただし、館外貸出はできませんのであらかじめ御了承ください。

## おたすねください

## 県の木とは

問 各県でそれぞれ県の木が決められています、どのようにして決められたのですか。

答 毎日新聞社が、国土緑化推進委員会と全国知事会の賛同を得て、昭和四十年、万国博覧会記念緑のニッポン全国運動として「県木選定運動」を提唱。農林省・文部省・厚生省などの後援協力のもとに、各都道府県に選定委員会がつくられ、翌年末

に決定しました。公共の広場に植えたり、並木や街路樹とすることを目標としましたが、スギの6県、ケヤキ・アカマツの3県など重複している県もありました。

埼玉県では、この提唱をうけて「県の木」審査委員会がつくられ、ケヤキ・イチヨウ・クヌギの三つの候補を選び、昭和四十一年七月より広く県民の投票を募りました。その結果、ケヤキの支持が一番多く、審査委員

「シラコバト」、昭和四十六年には県の花「サクラソウ」も指定されています。

資料 「埼玉大百科事典」埼玉新聞社 「県花県木」松田修著、保育社 「万有百科事典」小学館

会もこれを答申し、同年九月「緑化思想の普及に資するため、県象徴として『ケヤキ』を指定する」と告示されました。その選定の理由は、ケヤキが本県の地味に適し、きわめて強健で抵抗力が強く、樹形も優美であること、更に古くから県内各地に自生し、巨木も多く武蔵野の風情を代表する樹木として昔から親しまれていること、などです。

なお、そのほか県のシンボルとして、昭和四十年に県民の鳥